

1 被害防止計画の作成数、特徴等

（岡山市）

獣類は、イノシシ・ヌートリア、鳥類はカワウ・ヒドリガモによる被害が顕著なため、防除体制（環境整備）・被害地管理（防護施設）・個体数管理（有害捕獲）の3点から総合的に対策を行っていく。
また、被害発生地域において、講演会等を行い、被害防止に関する啓発・普及に努め、被害防止体制の整備を推進する。

（吉備中央町）

町内全域において防護柵の設置が進み、効果的にイノシシなどの鳥獣対策を行っている。

イノシシ、ニホンザルなどの鳥獣類が町内全域に生息しており水稲や野菜などの被害が深刻な状況が続いている。猟友会員が捕獲しても生息数の増加により被害が減少しないが、猟友会員との連携により被害軽減に努める。

（倉敷市）

【作成数】4、①平成20年度～平成22年度 ②平成23年度～平成25年度 ③平成26年度～平成28年度 ④平成29年度～平成31年度

【特徴】イノシシ・ヌートリアの生息域が拡大し、増加傾向となっている。また、倉敷市の特産であるブドウ・モモなどに被害を及ぼしているタヌキ・アナグマ・ハクビシンに加え、カラスについての被害相談も増加傾向となっている。このため、有害鳥獣駆除班による有害捕獲に取り組むとともに、防護柵の設置（市独自のイノシシ防護柵設置補助金制度）やその啓発にも取り組んでいる。

【対象鳥獣】イノシシ、ヌートリア、ハシブトガラス、ハシボソガラス、カワウ、タヌキ、アナグマ、ハクビシン

（井原市）

・被害防止計画の作成数：1計画 井原市鳥獣被害防止計画（平成21年3月31日策定）

・特徴等：鳥獣：イノシシ、タヌキ、ニホンザル、ニホンジカ、ヌートリア、ノウサギ、アナグマ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カワウ、キジバト、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ

「井原市緊急：平成26年度～平成28年度

（高梁市）

計画期間：平成27年度～平成29年度

対象鳥獣：イノシシ、ニホンザル、ニホンジカ、その他獣類、その他鳥類

特に被害の多いイノシシ、ニホンザルを捕獲と防護の両面からの被害防止対策の推進を図る。また、近年増加傾向にあるニホンジカ、その他の鳥獣（小動物）についても駆除を強化し、被害軽減に努める。

（真庭市）

真庭市全域を対象として、平成26年度から計画期間3か年で平成28年度を目標として1つ作成している。対象鳥獣はイノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ヌートリア、カワウである。

（新庄村）

平成26年度より3ヶ年計画で策定し、平成28年度を目標に計画を作成した。

対象鳥獣は被害の多いイノシシ、ニホンシカ、ニホンザルを対象に設定。

（鏡野町）

イノシシ、ニホンジカによる農林業への被害軽減のため、3年で計72,900mの防護柵を設置するとともに、狩猟免許の新規取得推進等を通じて、捕獲圧を高めることに重点を置いている。

（美咲町）

平成27年度より3カ年計画で策定し平成29年度を目標年度としている。

対象鳥獣は、イノシシ、ニホンジカ、ヌートリア、タヌキ、ハクビシン、アナグマ、カラス類、スズメ、カワウ、サギ類、ヒヨドリである。

2 事業効果の発現状況

（岡山市）

平成28年8月に、猟友会駆除班を主とした実施隊を設置したことで、有害鳥獣の被害防止対策の体制整備が整い、農家はじめ市民への啓発活動や指導などがスムーズに行えるようになった。

また、緊急時においては、市民等からの通報により、警察や関係機関・庁内部署等と連携した連絡体制で、市民の安全確保のため情報発信や追い払い、緊急確保等対応している。

（吉備中央町）

防護柵の設置により、効果的に地区内の農作物の被害の軽減に繋がっている

捕獲機材について、地元、猟友会員により捕獲努力を行っている

（倉敷市）

捕獲経費の助成により、捕獲意欲が向上し、捕獲数が増加した。捕獲や防護など総合的な対策で、平成29年度は被害金額、被害面積ともに目標を達成し、着実な成果につながっている。

平成29年度捕獲状況：イノシシ597頭、ヌートリア321頭、タヌキ・アナグマ・ハクビシン41頭

（井原市）

基本的に捕獲と防護の両面から対策を実施し、猟友会による捕獲活動、侵入防止策による防護を実施する。防護については集落ぐるみで実施できるものについてはワイヤーメッシュ柵の貸与をおこなっており、個人で行う場合は井原市が資材費の最大半額までの補助を実施している。

（高梁市）

国・県事業に取り組むことにより、捕獲頭数の増加が図れた。

また、防護柵設置に対する補助率の見直しや、野猿の追い払いに効果がある動物駆逐用煙火（3連発花火）の取扱いに係る講習会受講費等に補助金を交付する制度を新設したことにより自己防衛意識の向上を図れた。

（真庭市）

地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。

有害捕獲の活発な活動により、捕獲頭数は増加している。しかしながら地域の防護柵の整備状況は、被害が多い地域では進んでいるものの、これまで被害がなかった地域や地域としてまとまった防護柵設置がしにくい地域では進んでおらず、今後、さらなる整備推進が必要である。人材についてであるが、被害が発生している地域の農業者が自ら被害防止として狩猟免許（主にわな免許）を取得しており、わな免許取得者は増加している。ただし、免許を取得しても捕獲にかかる技能が未熟であったり、野生動物への知識が不足しているため、ただちに捕獲が進んでいるわけではない。猟友会のメンバーも依然として高齢者が多くおり、主力は60代であるが、若手も増加しており、若手猟師の技術向上による捕獲強化が期待される。

（新庄村）

新庄村、真庭地区猟友会新任分会を中心とした各機関で構成している。年々被害は増加傾向にあり駆除活動、防護柵設置等で被害の増加を食い止めたいと考えている。一定の防止効果はあると考えるが、被害防止計画の目標には到達していない。捕獲数は増加しているが、冬期の降雪量にも影響を受ける。

（鏡野町）

地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。

・地域ぐるみで事業に取り組んだことにより、地域全体の営農意欲の向上がみられる。

・H29年3月の供用開始以降、農地に侵入するイノシシ、ニホンジカの数は大幅に減っている。

・被害防止施設を整備した結果、イノシシ、ニホンジカ等の侵入ルートを大幅に絞り込むことができている。そのルートに猟師がわなを設置した結果、捕獲に成功するという事例も複数出ており、捕獲の効率化につながっている。

（美咲町）

集落を囲うように侵入防止柵を設置し、河川や農道等開放部分の近くの山中などに捕獲檻やわなを設置することで効率的な捕獲を実施することができるようになり、捕獲頭数も伸びてきている。

3 被害防止計画の目標達成状況

（岡山市）

獣類は、捕獲実績の増加に伴い被害金額が減少し、目標達成となってきたが、平成29年度にイノシシ被害が急増となり目標値を超える結果となった。

鳥類は、平成29年度から国調査の算出方法を示し、これによりカワウ被害の金額を算出したので、目標値を超える結果となった。また、平成29年度は、ノリ養殖の書記段階（新芽）でヒドリガモによる被害が広がったことで被害額が倍増したので、目標値を超える結果となった。

（吉備中央町）

被害状況はほぼ横ばいで推移しており、なかなか減少しない状況である。昨年度と比較し、被害金額、面積ともに減少したが、目標は達成出来なかった。

（倉敷市）

被害金額は目標の87%となった、被害面積カラス以外は大幅に減少している。有害鳥獣駆除班による積極的な捕獲強化の取り組みにより、今後、効果が期待でき目標値へ近づくと見込まれる。

（井原市）

被害金額、面積ともに目標を達成している。

猟友会による捕獲活動は年々捕獲数が増加している。また集落ぐるみで行う侵入防止策の設置はイノシシに対して非常に効果が高く、当該圃場については被害が無くなっている。

また、被害金額については果樹被害の有無に大きく影響されるため、引き続き捕獲と防護を継続していく必要がある。

（高梁市）

猟友会駆除班員の積極的な有害鳥獣の捕獲（駆除）により、市内全域で捕獲頭数の増加につながり、被害金額及び被害面積の目標値を達成することができた。

（真庭市）

捕獲頭数については、計画の数値を達成している獣種もあるが、被害の軽減目標については、ニホンザルを除いて被害が増加しており、達成できていない。

（新庄村）

イノシシの目標値50千円に対し平成29年度は1.0ha、1,360千円の被害があった。

ニホンザルの目標値180千円に対し、平成29年度は0ha、0千円の被害報告であった。

（鏡野町）

被害金額 達成率0.0% …いづれの項目においても、達成率70%を下回った。被害金額、被害面積については、増加した結果、達成率0%となった。

被害面積 同0.0%

捕獲頭数 同48.6%

（美咲町）

本計画では被害金額のみの目標設定をしている。被害防止対策を講じている地区においては被害額は減少しているものの、対策が遅れている地区において被害が拡大する傾向にあり、金額目標は未達である。

高梁市 (高梁市鳥獣被害防止対策協議会)	高梁市 全域	29	イノシシ ニホンザル ニホンジカ	緊急捕獲活動 支援事業	イノシシ(成獣):406頭 イノシシ(幼獣):275頭 ニホンザル(成獣):20頭 ニホンザル(幼獣):1頭 ニホンジカ(成獣):16頭	—	—	—	実施隊員を始とした駆除班員による精力的な駆除活動が行え、被害金額及び被害面積共に目標値を達成することができた。	35,000千円	19,437千円	316	175.0ha	35.6ha	465	有害鳥獣の捕獲により被害の軽減につながった。 今後も防護と駆除の両面から被害対策を講じていく。	・捕獲、防護など総合的な対策が功を奏し、被害金額、被害面積ともに目標を達成できている。 ・平成29年度からは、実施隊を再編し、猟友会と連携しながら防護・捕獲の両面から積極的な被害対策を講じており、捕獲により被害金額、面積の低減に取り組め目標を達成している。引き続き被害対策に取組も着実な被害軽減が図られていく。 ・地域一帯となった取組で、引き続き、被害軽減へ取り組んでいく。	平成29年度から実施隊を再編し、猟友会と連携しながら防護・捕獲の両面から積極的な被害対策を講じており、捕獲により被害金額、面積の低減に取り組め目標を達成している。引き続き被害対策に取組も着実な被害軽減が図られていく。		
井原市有害鳥獣被害防止対策協議会	井原市	27~29	イノシシ ニホンザル ヌートリア タヌキ ハシブトガラス ハンボソガラス ニホンジカ アナグマ アライグマ ハウビシン カワウ ダイサギ コサギ ゴイサギ アオサギ	侵入防止柵の整備 有害鳥獣捕獲	箱わな 2基 イノシシ 836頭 ニホンザル 1頭 ニホンザル 27頭 ヌートリア 313頭 タヌキ 83頭 アナグマ 141頭 カラス 46羽 サキ 8羽 カワウ 1羽	地元住民	H22	100	井原市は中山間地域に位置し、多くの園場が集落と山の境界で、イノシシ等の有害鳥獣による水稲や果樹野菜類の被害が多発していることから、猟友会による有害捕獲を行うとともに、侵入防止柵の設置を促進し、捕獲と防護の両面から対策を実施している。集落ぐるみでの対策として、ワイヤーメッシュ柵を設置しておりイノシシ被害に対して大きな効果を上げている。またサル被害については、井原市にはブドウの産地が多いこともあり猟友会と連携した定期的な追い払い活動などを実施し大きな被害は防いでいるが、果樹に執着している個体も多く、群れでの食害は1度で大きな被害を生むため油断できない状況である。その他シカ、アライグマ、ハウビシンなどは生息が確認されており個体数の増加を防ぐ意味でも積極的な捕獲を実施している。	23,000	12,486	273	77	4,56	469	基準年値 金額:29,050千円 面積:96,60ha 捕獲数の増加や防護柵の普及により被害防止計画に定める被害目標をしっかりと達成することができた。しかしながら単面の高い果樹等の園場に被害がでると被害金額が大きく増加することも考えられるため引き続き捕獲と防護の両面から対策を実施していく。	・駆除班による捕獲活動と集落ぐるみの防護など総合的な対策で目標達成に向け、着実な成果が上がっている。 ・サルは執着心が強く同じ場所ですべて被害を出し続ける。このため、引き続き、猟友会と連携した追い払い活動を行うとともに、捕獲体制も整え、被害防止に努めていきたい。 ・導入した捕獲檻が有効活用できるよう、広報紙を通じてPRするなど、有効活用を図ってきたい。 (備中県民局農畜産物生産課)	捕獲強化、防護柵の設置に積極的に取組、被害防止計画の目標を大幅に達成した。引き続き被害軽減が図られるよう関係機関で協力し、対策を実施して頂きたい。		
真庭市鳥獣被害防止対策協議会	真庭市	28	イノシシ	箱わなの購入設置	25基	真庭市鳥獣被害防止 対策協議会	—	100% (25基 /25 基)	平成28年度導入の箱わなでは、イノシシ成獣30頭、幼獣15頭の捕獲があった。また、この箱わなの導入により、有害駆除活動への地域住民間の理解が広がり、協力して駆除活動を実施している地域も出てきている。この事業は未導入地域をはじめ、既に導入している地域からも、多くの要望を受けている。箱わなは、防護柵の設置に手を尽くした地域住民にとつての次の手であり、今後も事業の継続が求められている。	—	—	—	—	—	—	イノシシ、シカは真庭市被害防止計画の年度ごとの捕獲目標を大幅に上回る実績を出した年度もある。被害金額については、一部獣種では横ばいか減少傾向にあるが、他の獣種の被害については減少に近づいていない。内訳ではイノシシ、サルについてはおおむね計画どおりではあるが、シカについては捕獲頭数の増加に伴って被害額も減少傾向ではあるが、依然として目標に満たない。従って、イノシシとともにシカ対策を重点的に実施する必要があると見受けられる。今後とも防護柵の設置と捕獲を有効に組み合わせた対策を継続して、被害の低減が引き続き図られることを期待する。	目標は、達成出来ていないものの、防護柵と捕獲を組み合わせた集落では、被害が減少する効果が現れてきている。引き続き防護、捕獲一体となった取り組みを進め、被害が減少している地区でも取組を波及させながら、被害額の低減に努めて欲しい。			
真庭市	真庭市 全域	27	イノシシ ニホンザル	緊急捕獲	683 104 12	—	—	—	猟友会の全面協力を得て、有害駆除班を編成するとともに班員の増加も図りながら駆除にあたってきた。その結果、イノシシやニホンザルでは真庭市被害防止計画に設定している年間捕獲目標数を大幅に上回る実績年度が出てきている。	25,756	30,760	55%	—	—	—	—	—			
真庭市	真庭市 全域	28	イノシシ ニホンザル	緊急捕獲	1,839 122 21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
真庭市鳥獣被害防止対策協議会	真庭市 見明戸	26	ニホンザル	大型捕獲柵の設置による多頭捕獲の実施	1基	—	—	100% (1基 /1基)	導入年度の平成26年に1頭を捕獲したが、偵察役のニホンザルを捕獲したことで、群れが警戒し近寄らなくなりました。そのため平成27年度については捕獲がなかった。平成28年度については、地域住民が辛抱強く餌付けをつづけ、その結果、22頭を捕獲した。餌付けは地域住民が行い、捕獲や止め刺しは猟友会が行うなど、役割分担ができており、今後も群れの捕獲が期待できる。	—	—	—	—	—	—	—	—			
真庭市鳥獣被害防止対策協議会	真庭市	29	イノシシ ニホンザル ニホンジカ	箱わなの購入設置	43基	真庭市鳥獣被害防止 対策協議会	—	100% (43基 /43 基)	平成29年度導入の箱わなでは、捕獲実績はなかったものの、継続的に設置利用をしている。また、この箱わなの導入により、有害駆除活動への地域住民間の理解が広がり、協力して駆除活動を実施している地域も出てきている。この事業は未導入地域をはじめ、既に導入している地域からも、多くの要望を受けている。箱わなは、防護柵の設置に手を尽くした地域住民にとつての次の手であり、今後も事業の継続が求められている。	—	—	—	—	—	—	—	—			
真庭市	真庭市 全域	29	イノシシ ニホンザル ニホンジカ	緊急捕獲	1,839 122 21	—	—	—	猟友会の全面協力を得て、有害駆除班を編成するとともに班員の増加も図りながら駆除にあたってきた。その結果、イノシシやニホンザルでは真庭市被害防止計画に設定している年間捕獲目標数を大幅に上回る実績年度が出てきている。	—	—	—	—	—	—	—	—			
真庭市	真庭市 全域	29	イノシシ ニホンザル	緊急捕獲(補正)	494 57	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
新庄村 (新庄村鳥獣被害防止対策協議会)	新庄村	27	イノシシ(成)	緊急捕獲等対策事業	—	—	—	—	降雪量が少なかったこともあり、捕獲数は伸びなかった。被害額については例年を上回る額であった。	230千円	1,360千円	0%	—	—	—	—	—	—		
			ニホンザル(成)																5	降雪量が少なかったこともあり、捕獲数は伸びなかった。被害額については例年を上回る額であった。
		28	イノシシ(成) イノシシ(幼)																22 3	例年と比べ、捕獲数は増加した。被害額については例年を上回る額であったが、捕獲により被害の軽減につながっている。
			ニホンザル(成)																22	例年と比べ、捕獲数は増加した。被害額については例年を上回る額であったが、捕獲により被害の軽減につながっている。
			ニホンシカ(成)																3	被害は発生しておらず、捕獲により被害の拡大を未然に防いでいる。
29	イノシシ(成) イノシシ(幼)	33 5	例年と比べ、捕獲数は増加した。被害額については目標を上回る額であるものの、捕獲により大きな被害には至っていないと考えられる。																	
	ニホンザル(成) ニホンザル(幼)	21 1	例年と比べ、捕獲数は横ばいである。被害額については0であった。捕獲により被害を減らすことができたと考えられる。なお、サル被害については被害報告が無かったためであるが、群れの出没は頻りに確認されており継続して対策を行う必要がある。																	

																				ニホンシカ(成)	3								被害は発生しておらず、捕獲により被害の拡大を未然に防いでいる。							被害は発生しておらず、捕獲により被害の拡大を未然に防いでいる。							
鏡野町	西屋地区	H28	イノシシ・ニホンジカ	整備事業(鳥獣害防止施設)	2,600m	西屋地区	常時稼働	中山間の水稲地域である西屋地区では、従来各農家が個別に防護柵を設置し、侵入防止に努めてきたが、山側の急斜面から侵入してくるイノシシ、ニホンジカによる被害は依然として深刻であった。そこで、東西・北の山側を中心にワイヤーメッシュを設置。H29年3月の供用開始以降、西屋地区では、イノシシ、ニホンジカによる農地への侵入防止、捕獲の両面で着実に成果が出ている。また、西屋地区に限らず、集落独自に侵入防止柵を設置した地区においても同様、侵入防止柵によって侵入経路が限定され、そこにわなを仕掛けることで捕獲効率が高まり、被害防止効果が高まっているとみられる。一方、人手不足等の理由から、被害防止施設の整備、野生鳥獣の捕獲等の対応に遅れが出ている集落も多く見受けられ、そうした集落においては、野生鳥獣の増加に歯止めがかかっていない。以上のような理由から、町全体としては、被害が深刻化している。対応が遅れている集落を中心に、引き続き、侵入防止、捕獲等の対策を強化していく必要がある。									1070	1649	0.0%	6.3	33.6	0.0%	西屋地区からの聞き取りによれば、H29年3月の供用開始以降、農地に侵入するイノシシ、ニホンジカの数は大幅に減っている。また、イノシシ、ニホンジカの侵入ルートを大幅に絞り込むことができている地区においては被害が増加している。捕獲の状況から今後シカの急激な増加が考えられるので、進入防止と捕獲を有効に組み合わせ、被害の軽減につながることを期待したい。	捕獲頭数は年々増加しており、生息数が相当数増えていると見受けられる。被害対策を確実に実施した地区においては効果が見られる様子であるが、対策未実施や個人対策となっている地区においては被害が増加していると推測される。捕獲の状況から今後シカの急激な増加が考えられるので、進入防止と捕獲を有効に組み合わせ、被害の軽減につながることを期待したい。	捕獲を強化を図り、捕獲数は増加しており、また、防護柵を設置した地区については、被害防止効果が期待されているものの、目標は皆前で定めていない。今後は、集落の合意形成を計りながら、集落ぐるみによる防護対策を進めるとともに、捕獲も強化し被害軽減に取り組んでいきたい。現在、新たにシカが増加が予想されることから、関係機関と連携しながら、効果的な対策を実施する必要がある。																		
								鏡野町	H27	イノシシ(成)	309																																
	イノシシ(幼)	11																																									
	シカ(成)	90																																									
	シカ(幼)	0																																									
	ヌートリア	1																																									
	鳥類	20																																									
	緊急捕獲等対策事業	580																																									
	緊急捕獲等対策事業	9																																									
	緊急捕獲等対策事業	132																																									
	緊急捕獲等対策事業	0																																									
	緊急捕獲等対策事業	15																																									
	緊急捕獲等対策事業	63																																									
	緊急捕獲等対策事業	439																																									
緊急捕獲等対策事業	4																																										
緊急捕獲等対策事業	74																																										
緊急捕獲等対策事業	0																																										
緊急捕獲等対策事業	3																																										
緊急捕獲等対策事業	10																																										
緊急捕獲等対策事業	255																																										
緊急捕獲等対策事業	17																																										
緊急捕獲等対策事業	208																																										
緊急捕獲等対策事業	0																																										
緊急捕獲等対策事業	0																																										
緊急捕獲等対策事業	0																																										
緊急捕獲等対策事業	5																																										

5 都道府県の総合的な意見

県全体での被害金額は平成29年で、289百万円と昨年と横ばい傾向で、依然として高い水準で推移している。各市町村の有害鳥獣の対策強化から対象鳥獣の捕獲頭数数は増加傾向にあるが、被害の減少に向けては、引き続き捕獲を向上させるとともに、防護柵を設置した地区については、農作物被害は減少するものの、防護柵を設置していない地域において、被害の増加が見られる場合が多いことから、今後も防護と捕獲の一体的な取組みの継続が必要と考えられる。